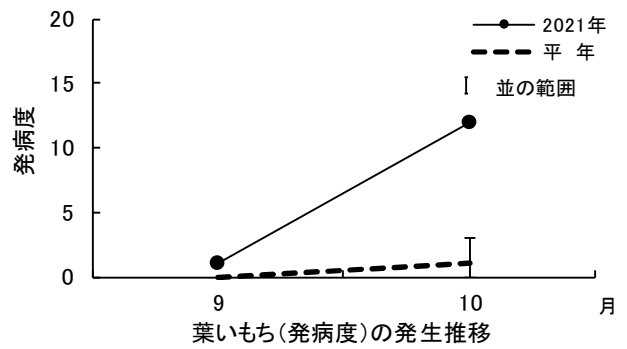
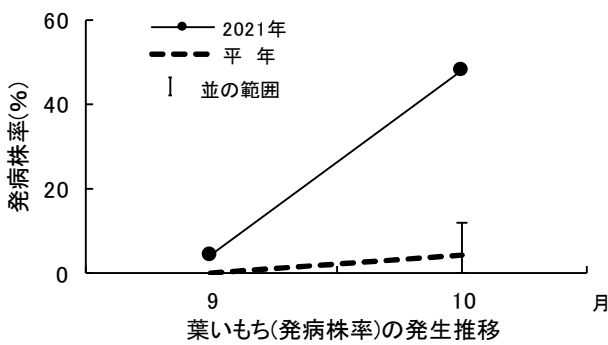


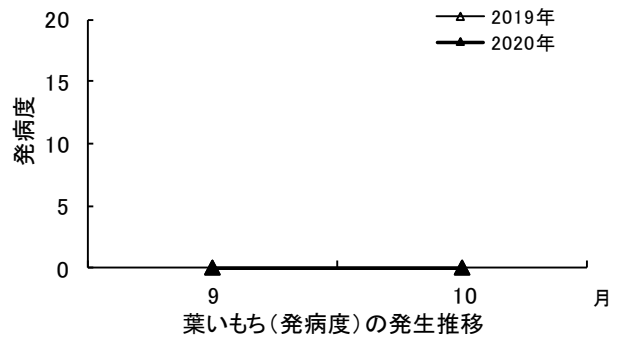
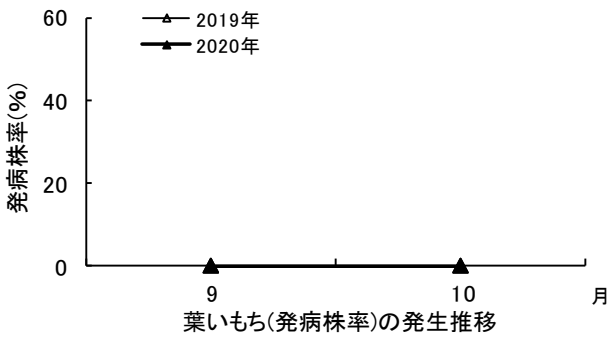
作物	水稻	地域	八重山群島
病害虫名	葉いもち病		
調査結果	10 月の発生量 (平年比)	やや多	
予報	10 月からの増減傾向	—	
	11 月の発生量 (平年比)	—	
予報の根拠			

調査結果

今期と平年の推移




過去 2 年間の推移



・発生ほ場率：69%（平年値：59%）

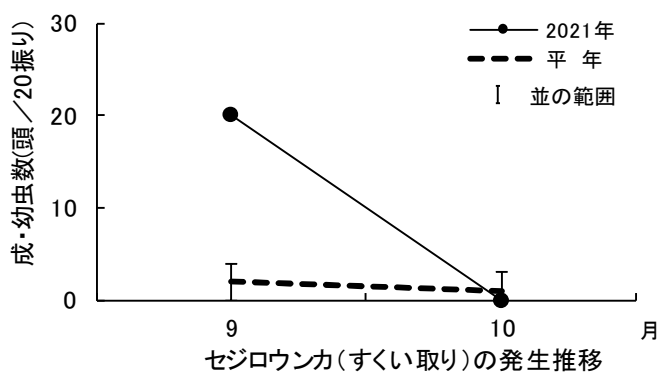
防除のポイント

・被害わらは次作の感染源となるため、ほ場外へ持ち出し処分する。

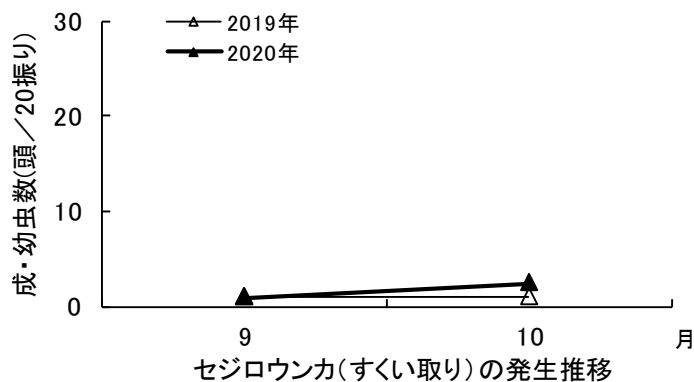
作物	水稻	地域	八重山群島
病害虫名	セジロウンカ		
調査結果	10 月の発生量 (平年比)	並	
予報	10 月からの増減傾向	—	
	11 月の発生量 (平年比)	—	
予報の根拠			

調査結果

今期と平年の推移




過去2年間の推移



発生ほ場率：44% (平年：58%)

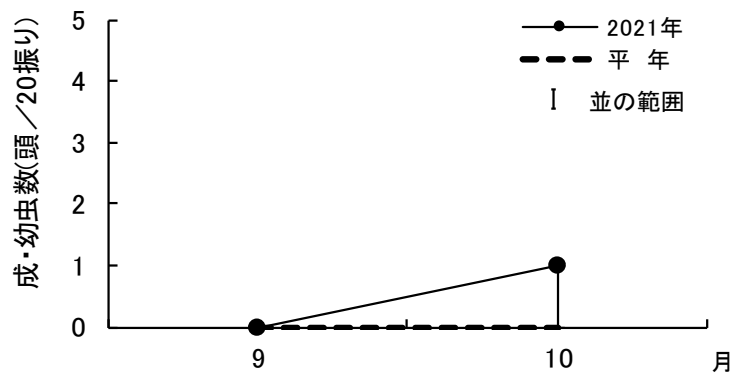
防除のポイント

・ウンカ類は株元に生息するため、薬剤防除を行う場合、株元に十分に薬剤がかかるように心がける。

作物	水稻	地域	八重山群島
病害虫名	ツマグロヨコバイ		
調査結果	10 月の発生量 (平年比)	並	
予報	10 月からの増減傾向	—	
		11 月の発生量 (平年比)	—
予報の根拠			

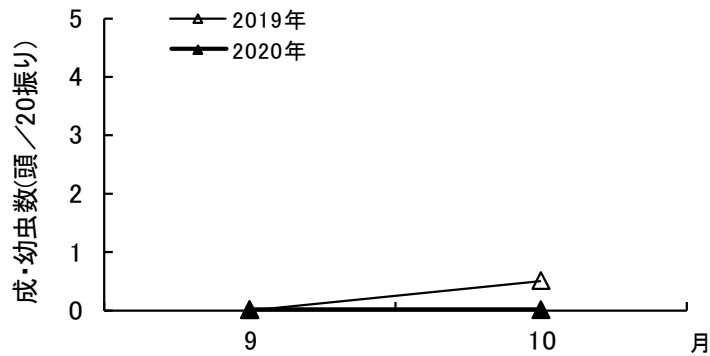
調査結果

今期と平年の推移



ツマグロヨコバイ(すくい取り)の発生推移

過去2年間の推移




ツマグロヨコバイ(すくい取り)の発生推移

・発生ほ場率：50% (平年値：40%)

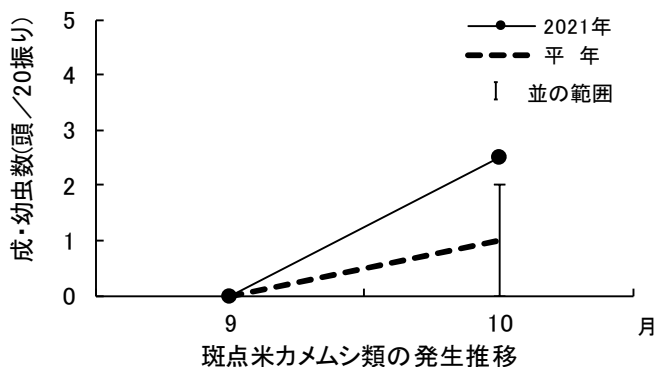
防除のポイント

- ・水田周辺の雑草防除を行い、発生源を少なくする。

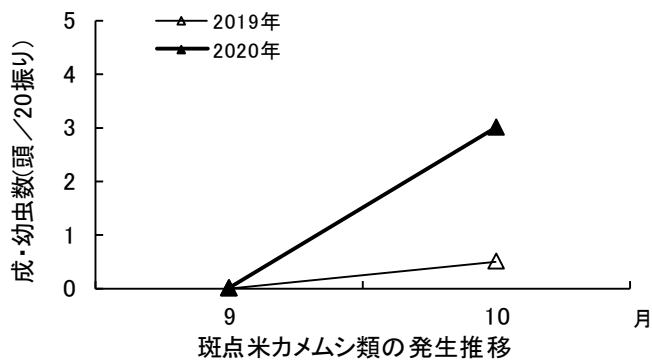
作物	水稻	地域	八重山群島
病害虫名	斑点米カメムシ類		 <p>クモヘリカメムシ</p>
調査結果	10 月の発生量 (平年比)	やや多	
予報	10 月からの増減傾向	—	
	11 月の発生量 (平年比)	—	
予報の根拠			

調査結果

今期と平年の推移



過去2年間の推移



- ・発生ほ場率：69% (平年値：53%)
- ・発生種：ホソハリカメムシ、クモヘリカメムシ、アカカメムシ

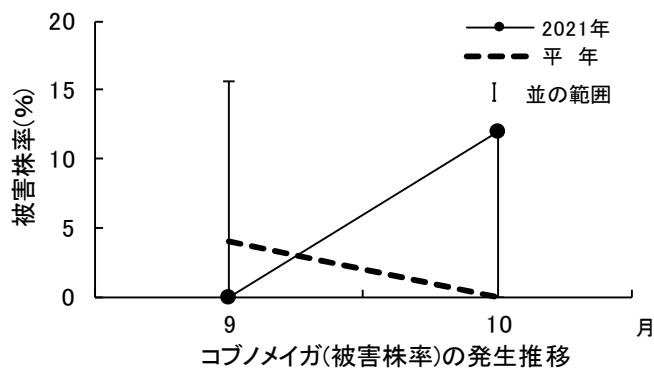
防除のポイント

- ・次作に向けた密度低減を図るため、畦畔および水田周辺の除草を行う。

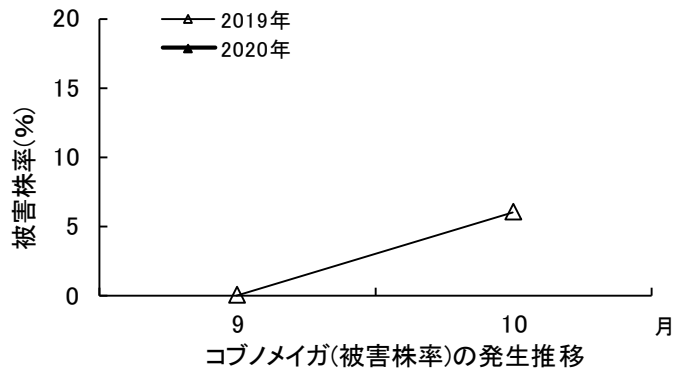
作物	水稻	地域	八重山群島
病害虫名	コブノメイガ		
調査結果	10 月の発生量 (平年比)	やや多	
予報	10 月からの増減傾向	—	
		11 月の発生量 (平年比)	—
予報の根拠			

調査結果

今期と平年の推移




過去2年間の推移



・発生ほ場率：81%（平年値：48%）

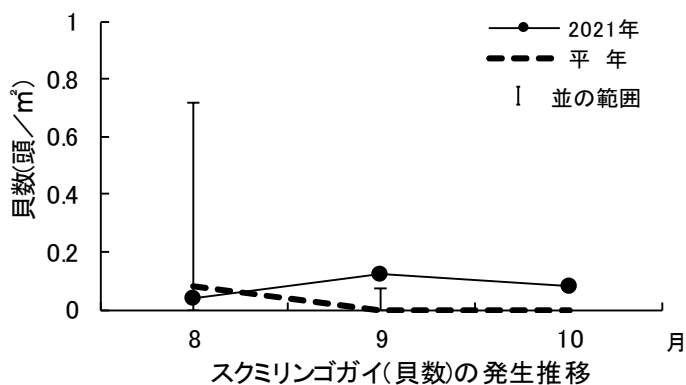
防除のポイント

・老齢幼虫は防除効果が劣るため、粒剤では成虫発生最盛期、粉剤及び液剤ではその約 1 週間後に薬剤防除を行う。

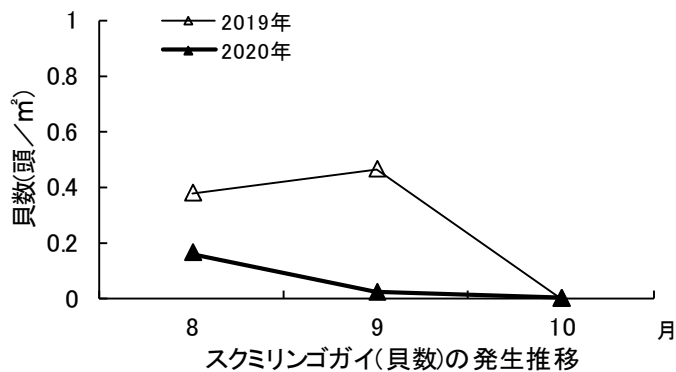
作物	水稻	地域	八重山群島
病害虫名	スクミリンゴガイ		
調査結果	10 月の発生量 (平年比)	やや多	
予報	10 月からの増減傾向	—	
	11 月の発生量 (平年比)	—	
予報の根拠			

調査結果

今期と平年の推移




過去 2 年間の推移



・発生ほ場率：50% (平年値：21%)

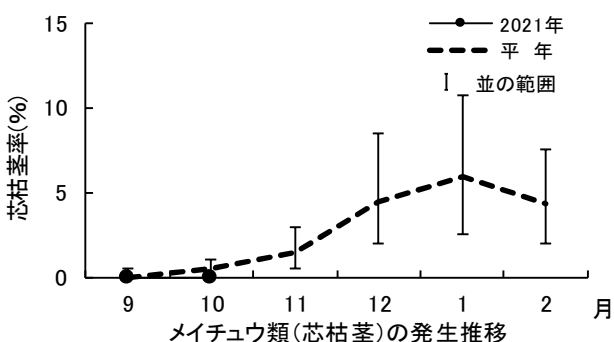
防除のポイント

- ・次作に向けた密度低減を図るため、貝や卵塊は見つけ次第捕殺する。
- ・畦畔および用排水路周辺の雑草を除去し、産卵場所を作らない。

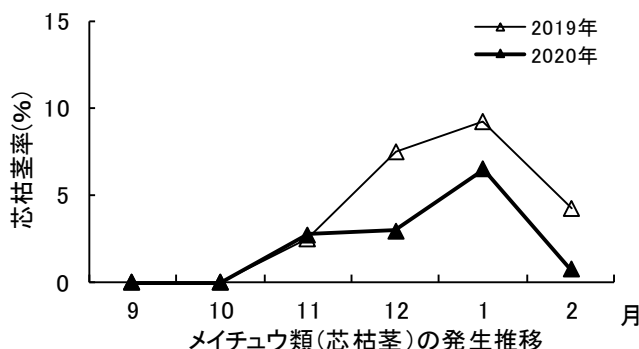
作物	さとうきび	地域	八重山群島	
病害虫名	① メイチュウ類(カンシャシクイハマキ・イネヨトウ)			
調査結果	10 月の発生量 (平年比)			並
予報	10 月からの増減傾向			↗
		11 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		芯枯茎率の平年の発生量の推移 (↗)		

調査結果

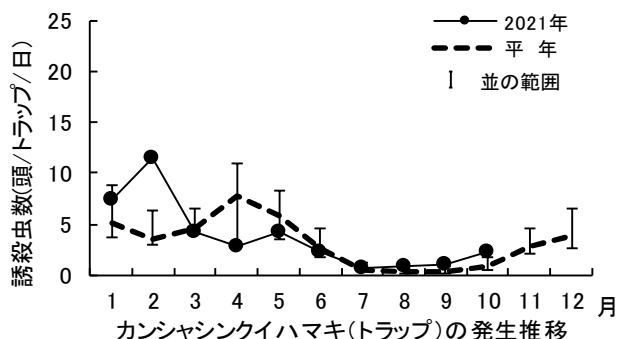
今期と平年の推移



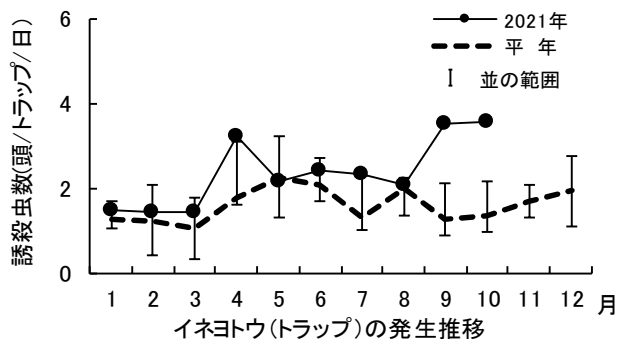
過去 2 年の推移



トラップ調査 (カンシャシクイハマキ)




トラップ調査 (イネヨトウ)



・芯枯れ発生ほ場率：31% (平年値：61%)

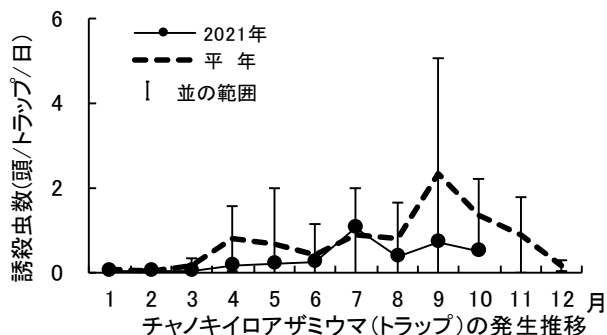
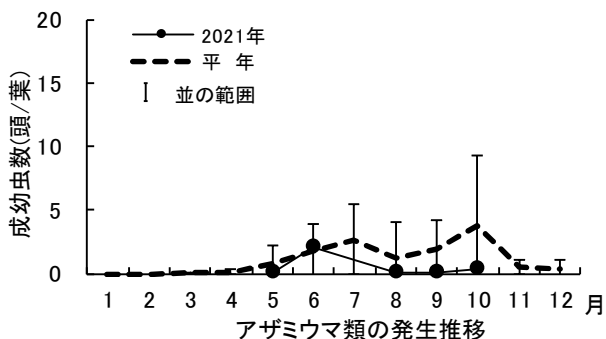
防除のポイント

- ・ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- ・加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、培土時および生育初期の防除を徹底する。
- ・ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・乳剤の場合は、葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。粉剤の場合は、茎と葉元の間に散布し降雨や散水等により溶解させ、葉鞘内部へ浸透させることで防除効果が高まる。
- ・植え付け時及び培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。

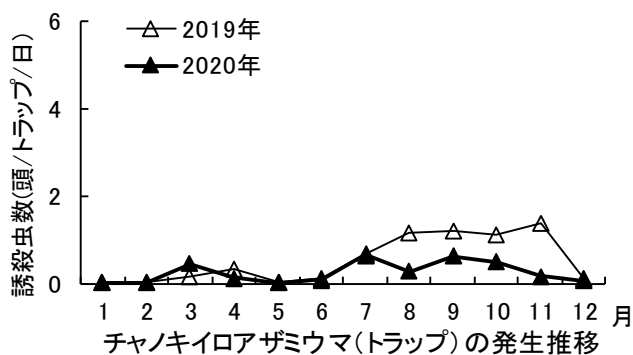
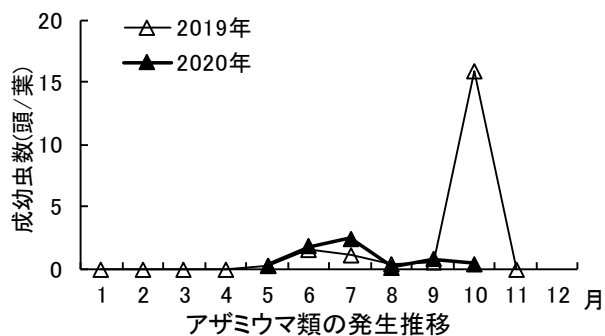
作物	マンゴー	地域	八重山群島
病害虫名	チャノキイロアザミウマ		
調査結果	10 月の発生量 (平年比)	並	
予報	10 月からの増減傾向	↓	
		11 月の発生量 (平年比)	並
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↓)	

調査結果

今期と平年の推移



過去2年間の推移



・発生施設率：50%（平年値：70%）


防除のポイント

- ・ 不要な新梢は本種の発生を助長するので、早い時期に除去する。
- ・ コミカンソウ類など、発生源となる施設内外の雑草を除去する。
- ・ 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。



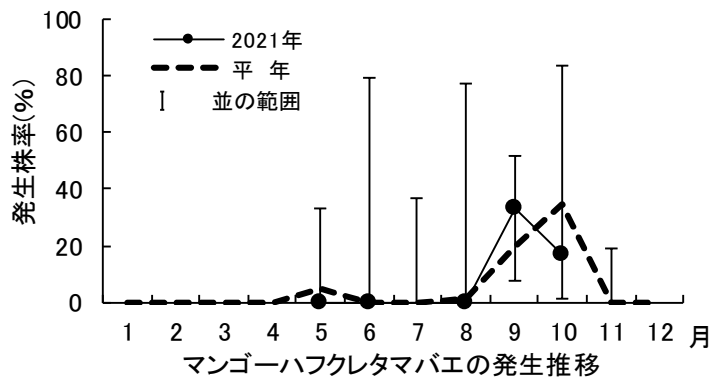
ナガエコミカンソウ



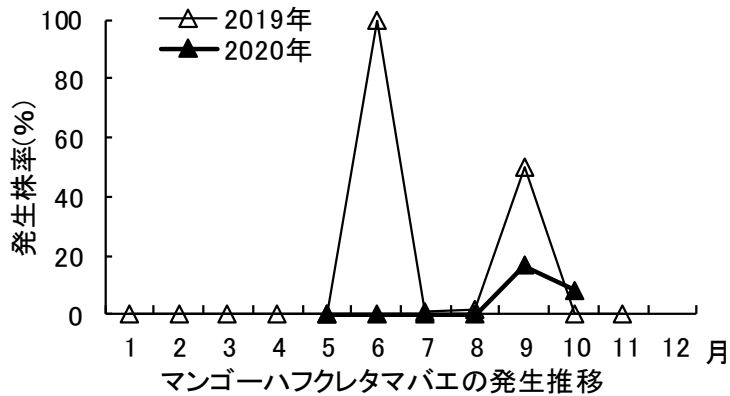
作物	マンゴー	地域	八重山群島
病害虫名	マンゴーハフクレタマバエ		
調査結果	10 月の発生量 (平年比)	並	
予報	10 月からの増減傾向	↓	
	11 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↓)	

調査結果

今期と平年の推移




過去2年間の推移



・発生施設率：60%（平年値：70%）

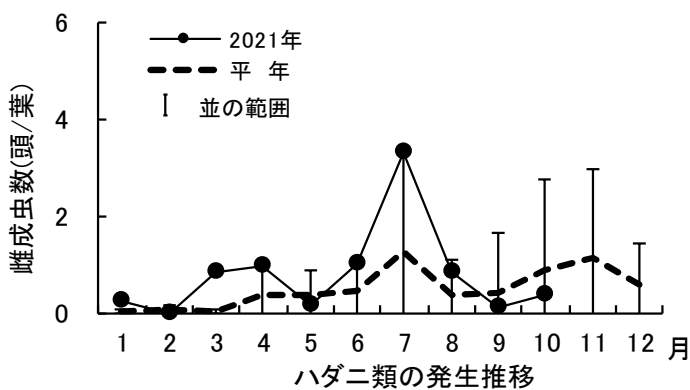
防除のポイント

- ・ 幼虫は、新葉から新梢の軸までの柔らかい組織内に潜行して食害し、成熟すると飛び出し、地面に落下して蛹化する。
- ・ 不要な新梢は本種の発生を助長するので、早い時期に除去する。

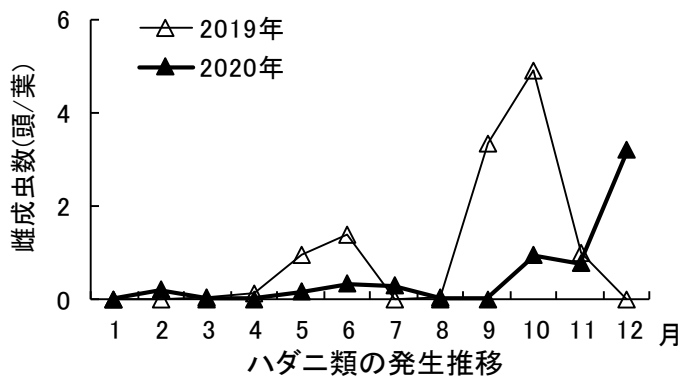
作物	マンゴー	地域	八重山群島
病害虫名	① ハダニ類		 <p>シュレイツメハダニ</p>
調査結果	10 月の発生量 (平年比)	並	
予報	10 月からの増減傾向	↗	
	11 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果

今期と平年の推移



過去2年間の推移




・ 発生施設率：20% (平年値：32%)

防除のポイント

・ 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

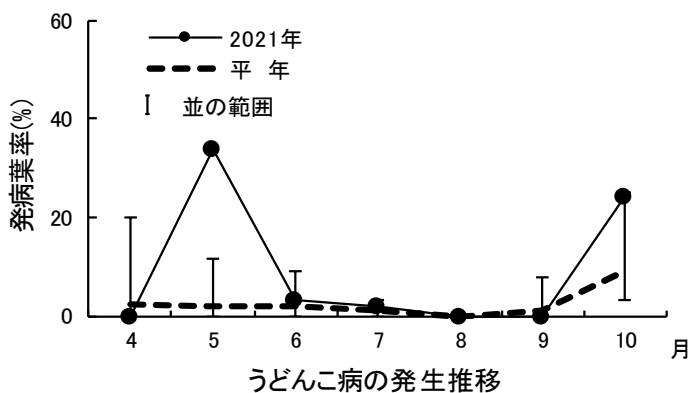


ハダニの寄生による葉のかすれ症

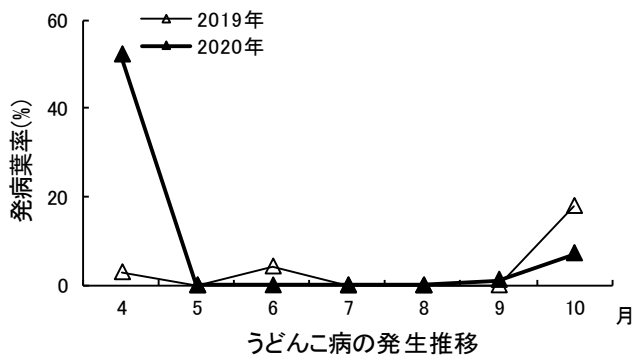
作物	オクラ	地域	八重山群島
病害虫名	うどんこ病		
調査結果	10 月の発生量 (平年比)	並	
予報	10 月からの増減傾向	—	
	11 月の発生量 (平年比)	—	
予報の根拠			

調査結果

今期と平年の推移




過去 2 年間の推移



発生ほ場率 : 60% (平年値 : 86%)

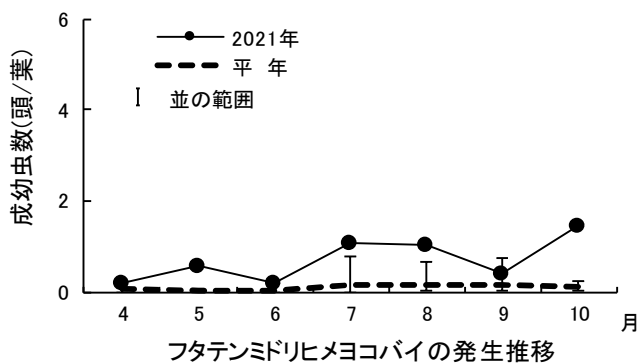
防除のポイント

- ・ 下位の罹病株や残葉は速やかに除去し、風通しを良くする。
- ・ 窒素過多にならないようにする。
- ・ 草勢を維持し、適切な施肥管理を行う。

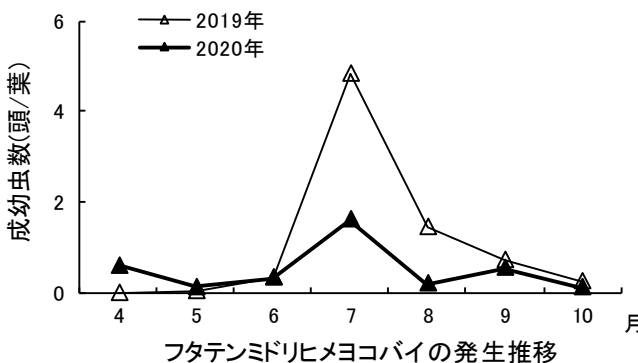
作物	オクラ	地域	八重山群島
病害虫名	フタテンミドリヒメヨコバイ		
調査結果	10 月の発生量 (平年比)	やや多	
予報	10 月からの増減傾向	—	
	11 月の発生量 (平年比)	—	
予報の根拠			

調査結果

今期と平年の推移




過去 2 年間の推移



発生ほ場率 : 100% (平年値 : 75%)

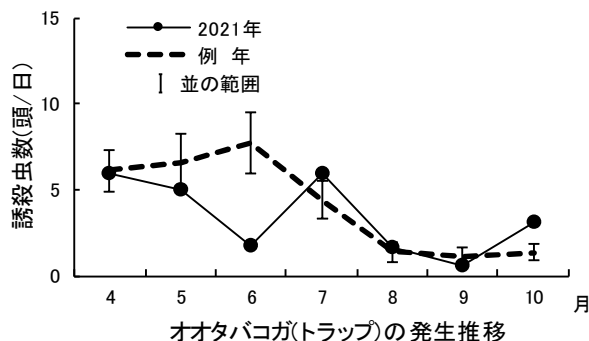
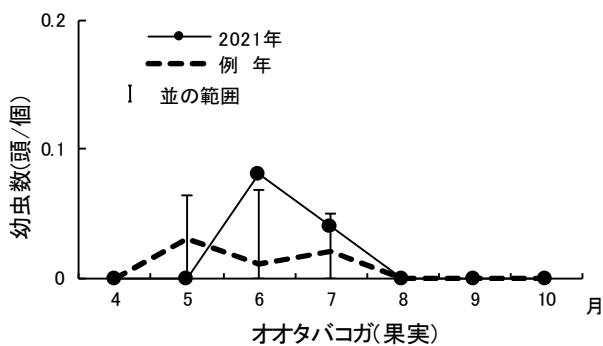
防除のポイント

- ・多発すると被害葉は黄変萎縮するので、葉裏を観察し、早期発見・防除に努める。

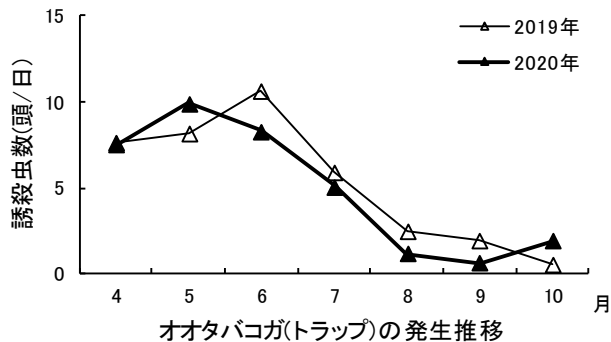
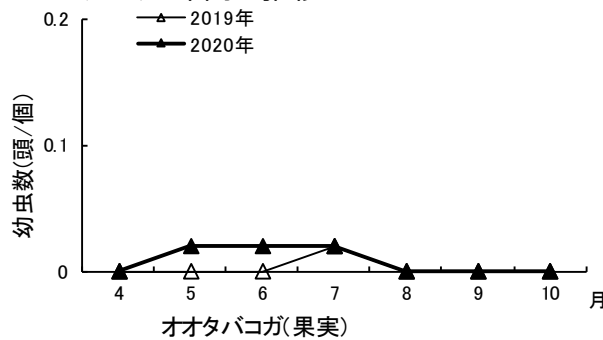
作物	オクラ	地域	八重山群島
病害虫名	オオタバコガ		
調査結果	10 月の発生量 (平年比)	(発生なし)並	
予報	10 月からの増減傾向	—	
	11 月の発生量 (平年比)	—	
予報の根拠			

調査結果

今期と平年の推移



過去 2 年間の推移



発生ほ場率 : 0% (平年値 : 40%)

トラップ調査では誘殺あり

防除のポイント

- ・発生密度が低い場合は、捕殺が有効である。
- ・葉裏の幼虫に対しては薬剤効果が低減するので、若齢幼虫期のかすり状被害を発見したら、速やかに薬剤を散布する。
- ・被害果や摘芯、摘花した腋芽・花蕾等の残さは、ほ場外へ持ち出し適切に処分する。